

仙台大学 広報室

Monthly Report

本学OB亀山耕平選手— 2014年世界体操競技選手権日本代表に決定



©Sohta Kitazawa

「あん馬」で優勝し、表彰式で笑顔の本学OB亀山選手(中央)。右は3位の古谷選手

7月6日(日)、千葉ポートアリーナで開催された「第68回全日本体操種目別選手権」の「あん馬」で、世界王者の本学OB亀山耕平選手(徳洲会体操クラブ/平成22年体育学科卒—埼玉栄高校出身)が15.900点を記録し、2連覇を飾りました。王者の貫録を見せ、2014世界体操競技選手権(10月・中国)への派遣照準得点をクリアし、昨年に続いて代表入りを果たしました。引き続き、亀山選手にご注目頂ければ幸いに存じます。

なお、「あん馬」の3位には、古谷嘉章選手(体育学科3年—大阪・清風高校出身)が入りました。

PROFILE

亀山 耕平 (かめやま こうへい) / 2014世界体操日本代表



1988年12月28日生まれ。仙台市出身。
170cm/62kg。血液型B。
仙台スピン体操クラブで体操を始める。
仙台市立幸町南小学校—東北学院中学校—埼玉栄高校—
仙台大学—徳洲会体操クラブに所属。
2013年世界体操競技選手権「あん馬」優勝。

< 目 次 >

本学OB亀山耕平選手—2014年世界体操競技選手権日本代表に決定	1
平成26年度海外武道実習	2
規律と楽しさと充実感—平成26年度仙台大学海浜実習	5
カリフォルニア州立大学ロングビーチ校からの留学生が互理・仮設住宅の住民と交流	6
「未来(あした)への道1000km縦断リレー2014」ふれあいランニングに本学学生も参加	7
学生の競技結果	9

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

平成26年度海外武道実習



平成26年度の海外武道実習が平成26年6月30日（月）～7月4日（金）までの日程で実施された。参加者は学生15名および引率教職員4名の計19名が龍仁大学（韓国）において実習を行った。この実習は、海外における武道教育に関

する学習体験の場として、本学と提携している韓国・中国の大学を中心に日本の武道、韓国伝統武道を通じて警護・警備について学習することを目的としている。今回、初めて女子学生3名の参加があったが、寮の受け入れ態勢や生活して行く上での問題等は特段見られなかった。龍仁大学の国際交流センター長からは、次年度以降のプログラムを実施するにあたり、更に学生間の交流を促進するために、期間を前倒しにし、龍仁大学の授業実施期間に実施してはどうかとの提案があった。また、同時に授業実施期間中に寮が利用できるかどうか等の問題が挙げられた。（韓国では、6月30日の時点で既に学生は夏季休業中である。）今回は、実習を実施するにあたり、フェリー事故や地下鉄の事故等が重なり、韓国においての実習の実施が非

しかしながら、東京事務所の金賢植研究員に同行して戴いたことで、全てにおいてスムーズに実施され、全員が無事に帰国できたことを感謝したい。

来年度に向けての課題としては、上述した学生間の交流を実施するための日程調整、渡航準備のための事前指導の徹底があげられる。また、警護・警備に関する授業が多いため、参加する学生も将来この方面へ就職を希望している学生に受講を勧めていきたい。

<報告：現代武道学科事務担当 中鉢 芳尚>

○海外武道実習に参加

くまがいなおき

熊谷直明さん（現代武道学科2年—仙台西高校出身）



今回、海外武道実習に参加したことでこれまで私が抱いていた世界観は一変しました。なぜなら、射撃やテロリズムについてなど日本では想像もつかないような授業を受けることができたからです。

また、韓国での犯罪対策、警備警護の内容は私の頭の中で考えていたものとは異なり、SF映画のような技術を用いていることに驚きました。この実習で学んだ授業の内容や、韓国の方々と交流を深めたことは、今後の人生の糧になると思います。

日本とは全く違う言語、文化に触れることは、貴重な体験であり、今の日本に求められるグローバル社会に適応できる人材に成長するために、現代武道学科の後輩たちにも是非この実習に参加してもらいたいです。

平成26年度仙台大学同窓会総会を開催



7月5日（土）、KKRホテル仙台（仙台市青葉区）で「平成26年度仙台大学同窓会総会」が開催されました。北は北海道から南は沖縄まで、19支部の支部長または事務長がご出席下さいました。

本学同窓会本部からも鈴木会長、小関・半澤・橋本の三副会長などが出席。総勢31名が参加し、活発な議論が繰り広げられました。

総会では、大河原事務次長の司会のもと、鈴木会長の挨拶に続き、平成25年度事業報告並びに平成26年度事業計画（案）について協議がなされました。「第63回全国大学野球選手権大会」に初出場した硬式野球部への支援金については、同窓会が一部負担することで了承。また、同窓会の法人化に向けては、引き続き検討する旨了承されました。最後に半澤副会長より、今後の仙台大学同窓会の発展を祈念する挨拶があり、無事に閉会されました。引き続き行われた懇親会では、朴澤理事長・学事顧問、阿部学長、若井副学長、吉田事務局長も出席。和やかな雰囲気の中、同窓生相互との交流が深められ、盛況のうちに閉会となりました。

2014NATA年次総会参加報告



(写真1)



(写真2)

平成26年6月26日（木）から28日（土）（現地時間）にアメリカ合衆国インディアナ州インディアナポリスにて、第65回 National Athletic Trainers' Association（以下、NATA）年次総会が開催され、朴澤泰治理事長・学事顧問、村上憲治准教授、小田桂吾講師、高橋陽介助教、齊藤広子新助手の5名が参加した。

NATA年次総会は、年に1度公認アスレチックトレーナーや全米の学生アスレチックトレーナーが一同に集う場となっており、スポーツ医科学に関わる最新の研究情報を聴講することができるだけでなく、最新のアスレチックトレーニング用品を入手することができる展示場も設けられている大規模な集会である。写真1は、多くのアスレチックトレーナーで賑う展示場の様子である。

またインディアナ州には、高橋陽介助教の母校であるインディアナ州立大学（以下、ISU）があることから、参加者全員でISUの施設視察も滞在中に実施した。視察は主にアスレチックトレーニング施設を中心に行なったが、3年程前にアスレチックトレーニングルームを新設拡大したようで、献体解剖室など多くの最新設備を取り揃えていた。その背景には、アスレチックトレーニング学科の他に理学療学科や作業療学科などの医療関連学科新設があったようである。写真2は、新設されたアスレチックトレーニングルーム活動の様子である。

総会へ参加することで、スポーツ医科学に関わる多くの最新情報を入手することができた。今回の経験を、個人の知識向上目的だけでなく、今後の仙台大学アスレチックトレーニングの発展に活かしていければと考えている。

<報 告：体育学科

スポーツトレーナーコース

助教 高橋 陽介>

学科一日体験会を実施



スポーツ情報マスメディア学科一日体験会の様子

毎年、仙台大学では、本学の「中身」をもっと知り、納得のいく大学選びをしてもらうために「学科一日体験会」を実施しています。

今年度は、7月12日（土）に体育学科&スポーツ情報マスメディア学科、7月13日（日）に健康福祉学科、7月19日（土）に現代武道学科、7月20日（日）に運動栄養学科の「学科一日体験会」を実施し、多数の生徒や保護者の方々がご来場下さいました。各学科の特色ある授業を受講され、仙台大学についてより理解を深めて頂けたなら幸いです。

お越し下さいました皆様、誠に有難うございました。

○スポーツ情報マスメディア学科一日体験会に補助学生として参加



きむらはるか

木村春香さん（スポーツ情報マスメディア学科1年—宮城・明成高校出身：女子サッカー部所属）

高校生たちが楽しみながら参加できるよう心がけました。大学の授業で受けた「レクリエーション実技」のゲームをして、高校生たちとコミュニケーションを図りました。笑顔が見られた時は、嬉しく、経験が生かせたと思いました。「すごく楽しかったです」「オープンキャンパスも来たいです」と言われた時は、疲れも吹っ飛びました。本当に勉強になりました。

大和町立鶴巣小学校スポーツ指導・特別スポーツプログラム報告



大学バスで移動



アイスブレイクゲーム



スポーツ玉入れ



タグラグビー



ミニテニス(プレイ&ステイ)



プラズマカーレース



教頭先生の終わりのお話し



学生達の自己紹介カード

昨年の前期から、仲野ゼミではゼミ活動の一環として毎月1回、鶴巣小学校でスポーツ活動指導を継続して実施してきました。これは、本学が大和町からの要請を受け、機構業務の一領域として大和町の保健福祉課と連携をとり、健康づくり事業で町民の健康増進や食事や栄養指導、体力アップなどを向上させるプロジェクトを展開するというものです。

最初に児童たちにゼミ生の名前を覚え興味関心を持ってもらうための戦略として行ったのが、各自の自己紹介カードの作成でした。学校側にお願ひし、写真の通り職員室の前の廊下に20枚張っていただいたことが功を奏し、ゼミ生と児童たちが打ち解けるまでに時間はかかりませんでした。月1回のスポーツ支援活動は実質35分間しかないので、ルールや技術などを紹介したニュースポーツの道具をそのまま置いて帰り、翌月までの休み時間で自由に実施

できる環境を作り、最低1種目を2ヶ月間継続して実施してもらいました。しかしながら、学校訪問の1回当たり35分間でできることは限られてしまうため、せめて2時間程度の時間を確保し、幾つかの種目を連続で体験してもらうプログラムを実施したいと学校側に交渉した結果、今回の特別スポーツプログラムが実現しました。

1学期終了後にスタートするサマースクールの初日を提供していただき、以下の時間帯で全体でのアイスブレイクの後、各学年に4種目を体験してもらいました。

8:30-9:00 開会のお話の後、3～6年生全員でアイスブレイクのレクリエーションゲーム(体育館)

9:10-9:50 1・2校時

⇒ 5・6年生は体育館でスポーツ玉入れとプラズマカーレースを体験

3・4年生はグラウンドでミニテニスとフラッグフットボールを体験

*後半グラウンドが高温になることが予想されたので、高学年は前半を体育館、後半をグラウンドとしました。

9:55-10:35 3・4校時

⇒ 3・4年生は体育館でスポーツ玉入れとプラズマカーレースを体験

5・6年生はグラウンドでミニテニスとフラッグフットボールを体験

10:40 閉会のお話・解散

当日は、大学に6:50分・集合出発として集合し備品を積み込んで出発、帰りは12時に大学に到着し解散というスケジュールで実施しました。何よりも感心したのは、ゼミ生たちが子どもたちをリードするのが上手くなっているということです。守らせることは守らせ、自由に遊ばせるところは遊ばせるなど、メリハリを付けた指導ができるようになりました。児童もすっかり名前を覚えてくれており、とてもいい雰囲気が形成されています。

2学期の毎月の指導は、10月から再開となりました。外遊びや運動に対する興味関心の高まりや行動変容にどこまで踏み込めるかは分かりませんが、ゼミ生たちと一緒に最後の半年を楽しみながら指導していくことにします。最終的に何らかのエビデンスとして効果が検証できればと期待しています。

<報告：大和町支援・実行委員長
仲野 隆士(体育学科長)>

規律と楽しさと充実感—平成26年度仙台大学海浜実習



平成26年度海浜実習が、例年通り山形県鶴岡市由良浜海水浴場で7月19日（土）から21日（祝・月）まで開催された。三日間を通じて梅雨明け前とは思えない晴天が続き、ひとりの落伍者も出ず、成功裏に終わった。参加学生は1年生を中心に82名、指導スタッフは、補助学生を含め23名だった。

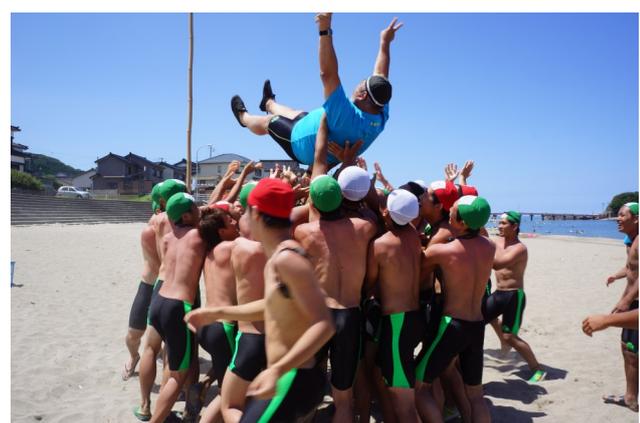
18日に先発隊が現地で、テント、ボート、備品等を準備し、19日昼、19日朝大学をバスで出発した実習生を迎えてくれた。船岡は小雨交じりの曇天であったが、日本海は晴れていた。北を見れば、海越しに鳥海山の雄大でなだらかな稜線が見える。頂上は雲に隠れていたが、その背後の空の深い青と対照が際立つ。浜辺に寄り添う民家の背後の丘は、深い緑に覆われている。浜辺の白砂に続き白山島が港を守るかのように海から屹立している。由良は相変わらず美しい（筆者は、15年ぶりに参加した）。

各民宿で昼食の後、午後2時から実習開始である。浜辺に整列した学生は、その整列もまだままならない。整列、点呼、入退水の練習が続く。その後級に別れての訓練である。A級宮城、B級菊地、C・D級永田の各主任のもとで、それぞれの泳力に応じ練習が続く。日が西に傾くころ、風景の全体は黄色い光に満たされ始める。他の海水浴客も帰りだす。この日の最後の点呼のときは、白、青、黄、赤の仙台大学の旗の下、整列した学生のみが浜辺に残っていた。

2日目20日は日曜日で、前日より海水浴客は多かったが、地元の人によれば、かつてよりも大分減ったとのことだった。A級は泳いで海洞探検、スキューバダイビング、白山港からの飛び込みなど多くのメニューをこなしたが、余裕が見られた。B、C級は、白山島巡り、カヌー、スキューバダイビングなどをこなし、それぞれ楽しんでいただようである。特筆すべきは、この日D級が白山港から沖にまで出て浜辺の本部にまで向かい、60分以上の小遠泳をみな泳ぎきったことである。これは、明日の大遠泳への光明であった。

21日は海の日であった。午前全員で編隊を組み、大遠泳に臨む。例年この編隊編成は実習長宮城先生の創意にかかる。全員がまとまって泳ぎきれるかどうか、その編隊によるところも大きいからである。その際、各級各学生の泳力を考慮し編隊を組まねばならない。前列と中心軸にA級学生、中心軸の外側にB、C、D級学生、後尾にはD級学生を配し、最後尾から泳力の優れた補助学生が落伍者を出さぬよう追尾する。入水地点は、由良浜を一岬隔てた麴ヶ浜である。そこから由良の本部まで、予定を30分超えた90分の大遠泳となった。途中、潮の流れによって、沖に出ようとする編隊が浜側に押し流された。多少遅れる学生も出たが、最後はきれいな編隊を組んで本部前に上陸できた。いかにも体育（系）大学学生の雄姿であった。よき指導を得て、一致協力してある目標を達成する姿は美しい。今回もそれを目の当たりにすることが出来た。

< 報 告 : 教授 小松 恵一 >



カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の短期留学生在が来訪



カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の皆様と一緒に=仙台大学

7月22日（火）～8月3日（日）の日程で、国際交流関係にある米国・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校から、スポーツマネジメント専攻の大学院生10名及びテリー・ヤマダ先生（写真前列左から3番目）が本学を訪れ、7月23日（水）には、阿部芳吉学長（写真前列右から3番目）を表敬訪問されました。

阿部学長からは「短い期間ではありますが、日本の習慣や歴史・文化などに触れ、有意義な体験をしてほしい」と歓迎の挨拶があり、その後、留学生全員が日本語で自己紹介を行ないました。



本学で同大の留学生を受け入れるのは、昨年に引き続き2回目で、今年度の留学テーマは「米国スポーツとの比較を通じて日本のスポーツにおける歴史と文化を探る」です。

滞在期間中には、本学教員による日本語教室や英語による講義が開講され、被災地の仮設住宅でのボランティア活動など、充実したプログラムとなりました。

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校からの留学生在が亘理・仮設住宅の住民と交流



仮設住宅の住民に歌とダンスを披露する留学生在たち
=亘理町公共ゾーン仮設住宅

7月25日（金）、本学に短期留学中の米国・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の大学院生10名が、ボランティア体験学習の一環として、東日本大震災で甚大な被害を受けた亘理町を訪れました。仮設住宅に暮らす住民との交流を通じ、被災地の実情を確かめました。

留学生たちは、仮設住宅の住民約30名と一緒に歌やゲーム、運動不足解消のための体操・ストレッチを行ない、交流を深めました。また、仮設住宅の住民に歌とダンスを披露し、会場を盛り上げました。

本学では震災直後より亘理町公共ゾーン仮設住宅で「エコノミークラス症候群予防のための運動指導」を実施しており、今も活動を継続しています。



「未来(あした)への道1000km縦断リレー2014」 ふれあいランニングに本学学生も参加



ふれあいランニングの様子＝平成の森しおかぜ球場（宮城県南三陸町）

7月26日（月）、平成の森しおかぜ球場（宮城県南三陸町）で「未来(あした)への道1000km縦断リレー2014」ふれあいランニング（主催：東京都及び東京都スポーツ文化財団）が行なわれ、本学学生も参加しました。本学からは、硬式野球部・男子サッカー部・教職員の計25名が参加し、約1.2kmをゆっくりとしたペースで、一般参加ランナーと共に走りました。また、阿部芳吉学長も一緒に走りました。

1000km縦断リレーは、東日本大震災からの復興をスポーツの力で支援することを目的に行われており、昨年が続いて2回目の開催。青森から東京までの約1,200km・全164区間を15日間かけて襷をつないでいくリレー形式で行なわれ、ランニングまたは自転車で走行します。

今回からは新たに、公園等を会場とする「ふれあいランニング」という区間が全10区間（会場）に設けられました。約500m～1.8kmの区間を参加ランナーたちがゆっくりとしたペースで一緒に走って、区間の代表者が次の区間走者に襷をつなぐというものです。

東運動公園（青森県八戸市）から受けた襷（たすき）は、無事に平成の森しおかぜ球場（宮城県南三陸町）の代表走者に引き継がれ、次の区間である石巻市総合運動公園（宮城県石巻市）へと向かいました。その後、襷は榴岡公園（宮城県仙台市）一雲雀ヶ原陸上競技場（福島県南相馬市）一郡山総合運動場（同郡山市）一アクアマリンパーク（同いわき市）一カシマサッカースタジアム（茨城県鹿嶋市）一旭スポーツの森公園（千葉県旭市）へと向かい、8月7日（木）、シンボルプロムナード公園（東京都江東区・青海）にゴールする予定です。



阿部学長
手を振りながら笑顔で走る

東北楽天イーグルス野球観戦―留学生



7月11日（金）東北楽天ゴールデンイーグルスVS千葉ロッテマリーンズの試合を観戦してきました。台風8号は11日午前、関東の東の海上で温帯低気圧に変わり、愚図ついた天候ではありませんでしたが、幸い試合は開催されました。

楽天の試合も台風のように勢いのある試合となり、とても面白い試合となりました。楽天は6-6で迎えた6回裏、松井稼頭央選手の二塁打で勝ち越しに成功しました。その後、同点を許しますが8回、聖澤諒選手の三塁打で勝ち越し。結果は8-7で楽天がシーソーゲームを制しました。

留学生の中には初めて野球観戦をした者もあり、大変盛り上がりました。この場をお借りして、留学生に貴重な体験の場を提供して下さいました鹿島建設株式会社の方々に感謝申し上げます。

<報 告：学生支援室 小林真衣>

本学のPR看板広告—JR船岡駅舎内のデザインがリニューアル



7月31日（木）、本学のPR看板広告が掲載されているJR船岡駅舎内の看板広告のデザインを、老朽化に伴い一新しました。

今回は、2014世界大学野球日本代表に選ばれ
くまばらけんた
た硬式野球部の熊原健人投手（体育学科3年—宮城・柴田高校出身）を起用。リニューアルした看板をぜひご覧ください。

日本学校教育学会第29回大会in仙台大学—8月8日・9日・10日に開催

2014年
8/9・10日
仙台大学
〒989-1693 宮城県仙台市青葉区船岡南2-2-18
日本学校教育学会
第29回大会 in 仙台大学
震災からの復興～さらなる学校教育の発展へ～

8月9日(土)
9:00～11:50 多文化系学会連携協議会企画
地域と学校の連携～多文化共生を担う人づくりその可能性と課題～
自由研究発表(第1～3会場)

13:40～17:00 公開シンポジウム
東日本大震災後の復興への取組と学校教育の実践課題
17:20～ 情報交換会

8月10日(日)
9:00～11:50 自由研究発表(第4～6会場)
13:00～16:00 課題研究
教育研究と教育実践の融合はどこまで進んだか
—教職大学院における研究者の「当事者性」の地平と課題—

※大会参加費：3,000円 ※非学生会員の方の参加も可能です。
※情報交換会：5,000円
※主催：日本学校教育学会 協賛：宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・河北新報社・協栄出版株式会社

お問い合わせ：高橋まゆみ(仙台大学)
E-mail: jssc29@sendai-u.ac.jp(日本学校教育学会第29回大会) FAX: 0224-57-2769

8月8日（金）・9日（土）・10日（日）の三日間「日本学校教育学会第29回研究大会」が本学で開催されます。日本学校教育学会は、大学・研究機関等の研究者だけでなく、小・中・高の多くの現職教員の方々が会員として活躍している学会です。

同研究大会は、公開シンポジウムのテーマを「東日本大震災後の復興への取組と学校教育の実践課題」、課題研究のテーマを「教育研究と教育実践の融合はどこまで進んだか—教職大学院における研究者の[当事者性]の地平と課題—」、多文化系学会連携協議会企画のテーマを「地域と学校の連携—多文化共生を担う人づくり、その可能性と課題—」として開催されます。

ビーチバレーボール部、男女共にインカレ出場



狩野・小山ペア(左)と高橋・近藤ペア=仙台大学ビーチバレーコート

7月6日(日)、仙台大学ビーチバレーコートで「第26回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会」東北ブロック予選会(主催:東北大学バレーボール連盟)が行なわれました。男子は、本学の狩野僚太選手(体育学科4年一宮城・東北工業大学高校出身)〔写真左から2番目〕・小山優選手(体育学科4年一静岡・稲取高校出身)〔写真左端〕ペアが3年連続優勝。

女子は、本学の高橋あゆみ選手(健康福祉学科4年一宮城・明成高校出身)〔写真右から2番目〕・近藤まなみ選手(体育学科2年一福島・南会津高校出身)〔写真右端〕ペアが初優勝を飾り、8月8日(金)～川崎マリエンビーチバレーコート(神奈川県川崎市)で開催されるインカレの出場権を男女で獲得しました。



狩野僚太選手

小山とはペアを組んで4年目。昨年はベスト16で敗れ、悔しい結果でした。今年こそは、3位以上を目指し、有終の美を飾りたいです。レシーブ力を高め、相手より拾い負けせず、攻めて勝利を掴み取りたいです。



高橋あゆみ選手

近藤とペアを組んでまだ日が浅いですが、心を一つにして頑張りたいです。ビーチバレーは心理戦や頭脳プレイが魅力のスポーツです。後悔しないよう1戦1戦一生懸命楽しみたいと思います。

軟式野球部、3年ぶりに全国へ一初戦は明治大学



全国大会に向け、打撃練習に取り組む安部主将
=並松運動場(柴田町船岡)

全日本大学軟式野球東北地区代表決定戦が6月4日(水)仙台市民球場(仙台市宮城野区)で行なわれ、本学が7-4で東北学院大学に逆転勝ちし、3年ぶり3度目の優勝を飾りました。本学は、「第37回全日本大学軟式野球選手権大会」(23チーム出場)＜8月15日(金)～20日(水):長野オリンピックスタジアム他＞出場を決め、初戦は明治大学と対戦＜8月16日(土)11時30分～長野県営上田野球場＞することになりました。

監督兼任の安部渉主将(体育学科3年一山形・米沢工業高校出身)は、「絶対的なエースはいない投手陣。継投で乗り切りたい。攻撃面は走れる選手が多い。機動力野球で得点を重ねたい」「目の前の試合を一戦必勝で戦いたい。チーム一丸となって、まずは初戦突破を目指し、一つでも上に行けるように頑張りたい」と力強く意気込みを語り、全国大会での活躍を誓いました。本学軟式野球部への熱い応援をよろしくお願い致します。



第30回全国選抜フットサル大会東北大会で宮城県選抜チームが優勝 —仙台大学の3選手も全国へ



写真提供：笹生心太講師

左から菅原選手・石川選手・笹生講師

7月26日（土）・27日（日）の2日間、マエダアリーナ（青森市）で「第30回全国選抜フットサル大会東北大会」が行なわれ、宮城県選抜チームが優勝しました。同大会には、本学フットサル部の石川大暉選手（体育学科2年一宮城・利府高校出身）とGK菅原瑞生選手（健康福祉学科3年一岩手・不来方高校出身）、本学フットサル部監督の笹生心太講師が宮城県選抜の一員として出場。宮城県選抜チームは、青森県選抜に8-4、山形県選抜に6-3、福島県選抜に5-3で勝利し、仙台大学から出場した三選手も、優勝に大きく貢献しました。

宮城県選抜チームは9月13日（土）～15日（祝・月）に、きびじアリーナ（岡山県総社市）で開催される全国大会へ出場します。



菅原瑞生選手

大舞台で緊張すると思いますが、平常心で自分のプレーが出来るようにしたいです。

自分の持ち味は、正確なスロー。フットサルでは、GKのスローがそのまま攻撃の起点となることも多いので、得点をアシストするスローを意識し、チームの勝利に貢献したいです。



石川大暉選手

決めたいです。

宮城県の代表として、誇りを持って戦い、全国の舞台を楽しみたいと思います。自分の持ち味は、裏への抜け出しからの得点。課題内容は、簡単に抜かれてしまうことです。全国大会まで残り約1か月ですが、自信を持って本番に臨めるよう練習に励み、全国大会で得点を